

記 録

全国大学史資料協議会二〇一六年度総会・全国研究会開催の記録

石 田 雅 春

一 開催までの経緯

(一) 開催地決定の経緯

平成八（一九九六）年に発足した全国大学史資料協議会は、創設記念総会を広島大学で開催した。また、創設一〇周年にあたる平成一八（二〇〇六）年には、再び広島大学において総会・全国研究会を開催した。

こうした経緯を踏まえ、平成二七年一〇月七日に開かれた役員会において、広島大学文書館は創設二〇周年にあたる二〇一六年度の総会・全国研究会も広島大学において開催することを提案したところ、了承されたのであった。

(二) 講演および全国研究会の立案

会場校が広島大学となったことを受けて、一〇月三〇日の文書館内部のミーティングにおいて対応を協議し、筆者（石田）が担当となることが決まった。そこで早速、企画立案および準備に着手し、一月

一九日に庶務校へ企画案を提出し、二月一五日の西日本部会幹事会に諮った。同幹事会では日程など企画の大枠は了承されたが、全国研究会の内容については継続審議となった。（テーマが確定したのは、四月一九日の幹事会であった。）

企画のうち初日の講演は、「森戸辰男にみる学問の自由と大学の自治」という演題で小池聖一文書館長が行うこととなった。あわせて中央図書館の地域国際交流プラザにおいて講演と関連した企画展示を行い、行事内容に多様性を持たせることとした。

一方、二日目の全国研究会については、テーマを複数案設定し、西日本部会幹事会での討議を重ねた結果、「キャンパス形成史」とすることになった。そこで会場校として趣意書を作成するとともに、庶務校と連絡を取りながら報告者の選定や調整を進めていった。こうして六月二八日には企画がほぼ固まり、細部の調整を行った上で七月二二日には確定案を庶務校へ連絡したのであった。

(二) 諸準備

今回の全国研究会の準備において配慮を要したのが日程であった。例年、東広島市の西条駅周辺では、一〇月第二週の週末に「酒まつり」が行われ、二五万人前後が来場する。この「酒まつり」の開催期間にあわせて全国研究会を行うこととなったため、宿泊先と懇親会（情報交換会・二次会、有志夕食会）の会場確保が課題となった。

このうち宿泊先については、年初の段階から早めに予約するよう幹事校を中心に注意を喚起した。あわせて宿泊予約の取れない参加者があることを想定して、学内の宿泊施設である学生会館と西条駅前の民間のホテルを仮予約し、宿泊施設の仲介を行うこととした。開催通知にあわせて会員校に案内した結果、一一名の利用があった。

次に懇親会については、会場周辺に三〇〜四〇名程度の人数が入る飲食店が少ないことと、東広島市内の交通事情があまり良くないことを考慮し、送迎バスのサービスがある飲食店を選定した。また例年は全国研究会当日に参加者を募る方法がとられていたが、上記の事情を考慮して今年度は事前申込みとした。

二 開催の状況

開催の状況については、全国大学史資料協議会編集・発行の『研究叢書』第一八号（平成二九年一〇月発行予定）に詳細な記録が掲載されるため、本稿では総括的な内容は割愛し、会場校の仕事を中心に記載する。（詳細な日程は参考資料として文末に掲載。）

(一) 参加者数と会場の選定

今年度の総会・全国研究会には、六七名の参加者があった。会場校として、学内の施設を予約する際に中央図書館のライブラリーホールと学生会館のレセプションホールとで迷ったが、①収容人数が多いこと、②同一の建物内にレストランや宿泊施設があり参加者の利便性が高いこと、からレセプションホールを選択した。

ただ、レセプションホールで実際に試みて、マイクおよびプロジェクターの性能が弱く、会場後方の参加者に不便をかけた。このため次回以降は、こうした点も含めて会場の選定を行う必要がある。

表 総会参加者数の推移

年度	東日本	西日本	会員外	合計	会場校
2006	39人	23人	0人	62人	広島大学
2007	49	20	0	69	成蹊学園
2008	32	16	1	48	琉球大学
2009	49	20	1	70	國學院大學
2010	40	27	0	67	熊本大学
2011	42	27	0	69	皇學館大学
2012	56	42	0	98	同志社大学
2013	80	30	2	112	明治大学
2014	50	36	0	86	桃山学院
2015	54	29	2	85	東北大学
2016	37	30	0	67	広島大学

(二) 全国研究会の運営

今回の全国研究会では、会場校が主導してテーマ設定を行うこととなった(テーマ決定の方法はケースバイケースとのこと)。趣意書の作成、報告者の選定、総括討論の運営、ともに関係各位のご協力のもとで円滑に進めることができた。特に報告者の選定にあたり、塚本俊明氏(広島大学産学・地域連携センター教授)に報告をお願いしたことで、歴史学だけではなく建築学の観点を織り込むことができ、内容を充実させることができたことは良かったと思っている。

また、総括討論の運営にあたって、あらかじめ進行表を作成していたおかげで、東日本部会一人・西日本部会一人の二人態勢での司会を円滑に進めることができた。

ただ、時間不足で、フロアからの意見を十分にくみ上げることが出来ず、懇親会の席上で複数の方からご指摘を受けた。ひとえに筆者の力量不足によるものであり、今後の反省材料としたい。

(三) 施設見学

三日目に広島大学文書館の施設見学と酒蔵通りの見学を行った。広島大学が会場となるのは三回目であるため、参加者が少ない可能性を考慮していたが、結果的には四四名(東日本部会二九名、西日本部会一五名)の方が参加された。人員の都合で二班に分かれて見学を行ったが、施設が狭隘で参加者に不便をかけたように思われた。このため次回以降は三班ないし四班の編成とするように工夫したい。

三 おわりに

以上、会場校の立場から、全国大学史資料協議会二〇一六年度総会・全国研究会の経緯をまとめた。役員校をはじめ参加者の方々のご理解とご協力のもとで、無事に行事を終えることができた。この場を借りて改めて参加者および関係各位へお礼申し上げます。

(いしだ まさはる・広島大学七五年史編纂室)



総括討論の様子(2日目)



総会の様子(1日目)

参考 全国大学史資料協議会二〇一六年度総会・全国研究会日程

一〇月六日(木) 総会

一三・三〇 全国大学史資料協議会役員会

一四・三〇 受付開始

一五・〇〇 開会

会場校挨拶…(広島大学・片山純一理事)

一五・一〇 二〇一六年度総会

開会挨拶…全国大学史資料協議会会長(広島大学・小

池聖一氏)

一五・五〇 (休憩)

一六・〇〇 講演…小池聖一氏(広島大学文書館長)

演題「森戸辰男にみる学問の自由と大学の自治」

一七・三〇 情報交換会 広島大学学士会館一階レストラン「ラ・

ボエーム」

一〇月七日(金) 全国研究会 テーマ「キャンパス形成史」

九・四五 開場

一〇・〇〇 二〇一六年度全国研究会開会

開会挨拶…全国大学史資料協議会会長(神奈川県)

池原治氏)

テーマ発題…西日本本部会事務局(武庫川女子大学・

古野貢氏)

一〇・一五 第一報告 椿田卓士氏(東海大学学園史資料センター)

報告題目「東海大学湘南キャンパスの「記憶」

「キャンパスの形成と大学史資料」

一一・〇五 第二報告 塚本俊明氏(広島大学産学・地域連携セ

クター)

報告題目「キャンパスを計画する」

一一・三五 (昼食・休憩)

※一二・三〇 企画展説明・見学 於附属中央図書館(自由参加)

一三・一〇 第三報告 奈良英久氏(立命館史資料センター)

報告題目「学園アイデンティティ醸成のためのキャン

パス模型―何も残っていないから、目的を特化して再

現する―」

一四・〇〇 第四報告 佐伯裕加恵氏(神戸女学院史料室)

報告題目「重要文化財神戸女学院(岡田山キャンパス)」

一四・五〇 (休憩)

一五・一〇 総括討論

一六・三〇 閉会挨拶…全国大学史資料協議会副会長(大阪大学

アーカイブズ教授 菅真城氏)

一七・三〇 有志夕食会(天亀)

一〇月八日(土) 見学会

九・三〇 広島大学文書館前集合・文書館施設見学

一三・〇〇 酒蔵通り(東広島市)見学